

258 乳癌及び女性肺癌の骨転移におけるシンチグラフィの臨床的意義

東北大抗研 放射線

○奥山信一, 佐藤多智雄, 尖戸文男,
武田俊平, 大木 厚, 松沢大樹

乳癌と女性肺癌の核医学診療を通じて, 次のような観察・結論に達した。①乳癌, 肺癌いずれも骨転移を起しやすい; ②肺癌では, 骨転移を起すと, まもなく死亡する。乳癌治療後, 肺癌併発例に興味深い; ③乳癌では, 骨転移を起しても, 散発的であることが多く, 放射線療法で, 局所コントロールができるので, 延命効果は, 実に大きい; ④頭, 胸, 腰椎, 腸骨等, 体重を担ない, 中枢神経を包含する部位に骨転移が起ると疼痛, 骨折, 脊髄損傷などを招来する。従つて, 乳癌では, 骨転移早期診断によつて思恵を受ける。他方, 肺癌では, 骨転移巣の局所コントロールが難しく, prognostic value は大きい, 現時点では, 患者の受ける思恵は少ない; ⑤骨転移の確定診断は, 核医学的にはむずかしい。以上, 乳癌にあつては, 骨シンチグラフィは, 骨転移巣の早期警報, 治療部位の明示の意義が大きく, 予後判断とは, 必ずしも結びつかないといえよう。これらの事柄を, データ及び症例提示によつて発表する。

259 悪性リンパ腫に対する骨シンチグラフィの臨床的意義

九大 放

阿部美穂, 鴛海良彦, 仲山 親
鴨井逸馬, 三好真琴, 松浦啓一

〔目的〕

組織学的に確診を得た悪性リンパ腫について, 臨床症状, 生化学的検査, X線検査及び⁶⁷Ga シンチグラフィによる検査結果を比較, 検討した。特に組織型及び stage による違い等の点で骨シンチグラフィのもつ臨床的意義を検討した。

〔対象と方法〕

対象はHodgkin病10例と, non-Hodgkin病34例である。検査は44例に65回実施したが, ^{99m}Tcリン酸化合物を10mCi静注し, 3時間後に撮像した。

〔結果〕

全体での陽性率は, 44例中, 21例にいずれかの部位に陽性を認め約50%となった。骨シンチグラフィの所見は必ずしも, 疼痛などの臨床症状や, 血中アルカリフォスファターゼ値や, ⁴⁵Ca値と平行しなかった。またX線所見との比較では, 明らかに骨X線所見より高率に異常を指摘し得た。また⁶⁷Gaシンチグラフィとの比較でも同様で, ⁶⁷Gaシンチグラフィ陽性例より高率に陽性像を認めた。

組織型による差では, Hodgkin病より, non-Hodgkin病に高率に陽性像を認めた。しかしlympho-sarcomaとreticulum cell sarcomaの間には明瞭な差はなかった。またstageとの関係では, stageの若いと思われるものにおいても陽性像を認める例もみられたが, 特にstage IVの9例では8例に陽性像を認めた。

〔まとめ〕

悪性リンパ腫において高率に骨シンチ陽性例を認めた。stageの決定, 治療方針の決定等に, ルチン検査として加えられるべき検査と思われた。